

くすのき



岡本小学校 学校だより

No.13

令和2年12月18日

『信頼と共生のワンチーム』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成



わたしもあなたも大切

保健室の前を通ると、心がポカポカになります。

「私が泣いていた時、みんなが心配してくれた」

「わからないことがあったら、友達がいろいろ教えてくれた」

保健委員会の呼びかけによって、「あったかエピソード」が徐々に集まっています。

校内音楽会を大成功に収めた4年生の教室前にも、6年生からの「あったかエピソード」が、たくさん掲示してあります。

4年生へ

この前はすてきな演奏、ありがとうございました。とても上手で迫力があってすごかったです。すぐ練習してきたんだなと思いました。この音楽会を機に学んだことを生かして、これからもがんばってください。

6年生の道徳の教科書に「心を形に」という話がありますが、感謝の気持ちを言葉にして表す「あったかエピソード」は、まさに「心を形に」です。

さて、「あいさつ」も、「心を形に」変えられる手段の一つです。下の表は、10月に全校の子どもたちに「あいさつ」について尋ねたアンケート結果です。

- ①目と目を合わせて挨拶していますか? …65%
- ②明るく元気に挨拶していますか? …68%
- ③友達や先生、サポート隊など、いろんな人に挨拶していますか? …80%
- ④自分から進んで挨拶していますか? …62%
- ⑤毎日挨拶をしていますか? …75%

※「はい」と回答した割合

この結果を見ると、多くの子どもたちが、友達や先生、サポート隊の方々などへ「挨拶をしている」と答えています。一方、相手としっかり目を合わせて挨拶をすることや、自分から進んで挨拶することが苦手な子どもたちが多いこともわかります。自分では

挨拶をしているつもり、でもその声や気持ちが相手に届いていない…アンケート結果から、こうした悲しい現実が垣間見えてきました。

この学年で過ごすのも、あと3か月。児童会とも協力し、岡本小学校の子どもたちが、相手に伝わるような挨拶ができるように、新たな取組「ありがとうの輪を広げよう、大作戦」が始まりました。

あるクラスでは学級活動の時間に「どうしたらよいあいさつができるか」について話し合い、各自が意思決定をしました。

わたしはアイコンタクトをして、大きな声で先にあいさつをしたいです。自分がしあわせになるように、あいさつをしたいです。

12月4日～10日までは、人権週間でした。国連NGO横浜国際人権センター会長 杉藤様にお越しいただき、6年生が人権教育の授業を受けました。冒頭、杉藤さんは、こんなお話をされました。

電車に乗っていて、ご高齢の方が乗ってきたらあなたはどうしますか? きっと「その方のために席を譲ろう」と思うでしょう。でも、周りの目が気になったり、勇気がなかったりして、できないことがあります。

人権とは、人を大切に思う気持ちです。あなたに「人を大切にしたい」という気持ちがあっても、実際に動くことができないければ、その気持ちは相手には伝わりません。実際に体が動くようになるためには、練習や訓練をして、体を動かす努力が必要なのです。

「4月の頃は挨拶のできなかった子どもが、今では自分から挨拶するようになりました」という嬉しい報告を、サポート隊の方から伺いました。

「あなたが大切」というメッセージを挨拶にこめながら、大人が声をかけ続ける等、子どもが練習できる環境づくりを、学校でも続けていきます。

授業参観Week & 学校運営連携協議会

11月19日(木)~11月27日(金)まで、授業参観Weekを行いました。密集を防ぐため、教室への出入りの制限や私語厳禁等にご協力をいただき、感謝申し上げます。制約の多い参観でしたが、今年度初めての授業参観でもあり、8割以上の皆様にご参観いただくことができ、うれしい限りです。保護者の方からは、「このコロナ禍の中でも、授業参観を開催していただき、ありがとうございます。この日を待っていました」

「いつもは子どもの後ろ姿しか見られませんでした。リモート映像によって、子どもの顔を見ることができ、よかったです」

等の肯定的な感想をいただくことができました。



学校運営連携協議会でのご意見(一部)

- どのクラスも授業に集中できている
- 黒板の日付が「霜月」と記載されていたり、オリジナル教材を使用したり工夫がある
- 教室でもソーシャルディスタンスが十分にとれている

△施設面での修繕を早めにした方が良い

△情報モラルの授業を今後も大切にしたい

~今後の学校教育に生かして参ります~

おやじの会活動

11月8日と15日の2回にわたり、校内の環境整備作業をしていただきました。

グラウンド周りの側溝や高木の剪定など、休日を返上してのご活動に、心より感謝申し上げます。おかげさまで大変きれいになりました。



顔の見える給食

「わー、おいしそう!!」

思わずそんな声も聞かれます。給食を楽しみに登校してくる子どもも多くいます。

献立を立てる際、飯田栄養士は、食の安全や季節感を考慮し、作った人の顔が見える食材を積極的に取り入れています。先日は、子どもたちが育てたさつまいもや、市内でとれたお野菜を使った献立が登場しました。作る人の顔が見えることで、子どもたちの食も進んでいます。



瀬戸 善さん↑
手作り野菜

師走を迎え、各学年で「書初め」の学習が始まりました。今年も、習字ボランティアの渡邊厚子先生をお迎えし、熱心なご指導をいただいています。多くの方に見守られている子どもたちは幸せです。

わたしのひとりごと

こんなニュースを放映していました。ある保育園でのこと、ゼロ歳児のクラスで、保育士がマスクをしたまま子どもたちに離乳食を食べさせていたところ、食べ物をかまわずに飲み込む子どもが出てきたというのです。そういえば、私にも思い当たる節がありました。我が家のお孫ちゃん(10ヶ月)、マスクをとったばあばの顔をじっとながめては、何度も何度も口のあたりを触ろうとします。(これは、いったいどういう意味?)

この子が生まれたときは、世の中はマスクをしていない顔ばかりでした。マスクをはずした部分(口元)に興味があるのは、そういうことかなと想像できます。

咀嚼以外にも、表情を通して子どもに伝えるものはたくさんあります。例えば、『笑顔』。子どもが笑顔でいられるために、親ができることはなんでしょう。ある脳科学者は、このように言っています。

親が笑顔でいることが子どもの笑顔を引き出せる

母親の笑顔は、子どもの能力を引き出す効果もあるそうです。となると、マスクでいつも口元が隠されている母親の笑顔は、どうやって子どもに伝わるのでしょうか。

安全への配慮と、子どもの成長を支えるということを同時にやっていかななくてはならない2020年でしたが、今年も幕を閉じようとしています。来年に大きな期待をかけつつ、暮れ行く年を想っています。

健康にご留意され、良いお年をお迎えください。今年も大変お世話になりました。